

## H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

### 【施策番号 28101：気候変動に対応したゲリラ豪雨(局地的大雨)対策に関する研究(国土交通省)】

- 1 日時：平成22年9月10日(金) 11:15~11:30
- 2 場所：内閣府(合同庁舎4号館)共用第3特別会議室
- 3 聴取者：総合科学技術会議有識者議員 相澤議員、白石議員、奥村議員、  
今榮議員  
外部専門家 7名(うち若手2名)  
内閣府 岩瀬審議官、大石審議官、廣木参事官、村上参事官
- 4 説明者：国土交通省 気象庁 気象研究所 気象衛星・観測システム研究  
部 第二研究室 鈴木室長  
河川局 河川計画課 河川情報企画室 五道室長

#### 5 施策概要

ゲリラ豪雨(局地的大雨)に関する研究開発を実施することにより、洪水・浸水の監視・予測の高度化等を行い、大雨に関する気候変動適応策に資するとともに、国民の安全・安心の確保を推進する。

#### 6 質疑応答模様

##### 【相澤議員】

2020年までの目標は大胆に判断されており大変結構と思う。2020年にやっと予測技術が完成し適用・展開できるようになるのか。

##### 【国土交通省】

観測・監視技術についての成果は、予算の制約はあると思われるが、可能なものは順次配備を進めていき、実用化ができる範囲で進めてまいりたい。予測技術については大型コンピュータの導入や技術開発が必要であるが、2020年までには実用化が可能である。

##### 【相澤議員】

本研究は、国際的にはどういう水準にあるのか。

##### 【国土交通省】

観測システムについては、世界でもトップレベルのものができつつある。数値予報技術についてもトップレベルで、メソスケール予報についての国際比較

実験ではトップクラスの成績を得た。

**【外部専門家】**

要求額が少ないので、ただいまの説明は他の施策も合わせた内容と思う。全体としての推進・協力体制、予算額は分かるか。

**【国土交通省】**

一見、要求額が小さく見えるが、観測・監視技術の開発に必要となるデータは、外部データや河川局 X バンド MP レーダのデータ、気象庁の現業データが活用できるためである。さらに、配備しつつある観測システムのデータ、人工衛星のデータ、これまで使っていなかったデータの活用も考えている。

**【奥村議員】**

文科省と連携し、地球観測データの活用を図ると書かれているが、具体的に何をどのように使うのか。文科省からは、ゲリラ豪雨についても全地球モデルから局地モデルにスケールダウンするとの説明があった。気象研とはアプローチがまったく違う。両面必要と思うが気象研究所のアプローチは如何。

**【国土交通省】**

文科省との連携については、衛星データなどの活用を考えている。アプローチとしては、1時間先までは観測・監視結果から予測し、それより先は予報モデルを用いた予測をする。予報モデルの境界値は全球モデルからスケールダウンする。

以上